

大学への信頼を回復するために

中央大学に学ぶ学生の皆さん

皆さんはTV、新聞等で、本学の4名の学生が大麻取締法違反で逮捕され、さらに5名の学生が補導されるという報道を見て、少なからぬショックを受けていることでしょう。

私は特に、大学構内の駐車場で大麻の売買が行われたことを、大変深刻に受け止めています。

逮捕された4名の学生のうち、1名については、既に所属学部において事実調査のうえ、退学処分としましたが、他の3名の学生についても、現在、それぞれの学部内に調査委員会及び懲戒委員会を設置し、事実関係を慎重に確認中ですが、事件の重大性に鑑み、厳しい処分を行うことになるでしょう。

大学構内で大麻の売買が行われたということは、それ自身が重大な犯罪行為であるばかりでなく、教職員と学生諸君とにより支えられてきた知の共同体である大学の存在基盤を破壊する行為であり、父母の皆さんをはじめとする社会の人々から、大学に寄せられてきた信頼を著しく傷つける行為です。

しかもさらに問題とすべきは、これらの行為に及んだ学生に、大麻所持・栽培・売買の犯罪性と反社会性についての自覚が欠如していたということです。

大学は、決して再びこのような事件が起きることを許しません。

大学は、あらゆる手段を講じて再発防止の具体策を展開していきたいと考え、さっそく薬物乱用に関する防止啓発の委員会を設置し、鋭意取り組みを始めています。

学生諸君にあつては、大麻・麻薬等には絶対に手を染めることなく、社会の一員としての自覚と中大生としての良識を持って、節度ある行動をとるよう切に希望します。

2004年9月21日

中央大学

学長 角田邦重

*

*

これは「大麻事件」に関し、後期授業開始にあたり、学長が映像で直接学生に呼びかけたメッセージです。電子掲示板（多摩キャンパス）で9月いっぱい流されました。これより前、大学は7月30日付でパンフレット「学生諸君へ」（No.204）を発行し、学生へ注意を喚起するとともに、その徹底を図るため8月3日全在生に同内容のパンフレットを郵送しました。また、この問題に全学で組織的・統一的に取組むために、9月6日、学長の下に「大麻等薬物乱用に関する防止啓発連絡会議」を設置しました。今後、緊急・短期的な取組みのみならず中長期的な対策をも検討し、啓発・防止に努めていく所存です。

3名の学生について、所属学部教授会は9月末、調査、懲戒委員会の報告を踏まえ無期停学処分としました。

（学事部）



絶対ダメ!!



中央大学

薬物乱用問題は深刻です

「薬物乱用」とは、どういうことでしょうか？ まず、基本を押さえておきましょう。

「薬物乱用」とは、

「医薬品を本来の目的から外れた用法・用量・目的のもとに使用すること」

「医療の目的にない薬物を不正に使用すること」

です。

誤解のないように重ねて言いますが、一度でも不正に使用すれば乱用となり、犯罪として処罰されます。また、インターネットなどで紹介している「合法ドラッグ」といわれているものは、規制薬物の化学構造を変えて規制を免れているものもあり、アメリカでは多くの死亡例があるように、大変危険なものです。

「薬物」というと、外国に比べて、日本はそれほど深刻ではないと考えている人も多いと思いますが、近年、特に若い人たちの乱用が大きな問題になっています。

Q：「薬物乱用」には、どんな問題点があるの？

A：薬物乱用には、当事者や社会に次のような被害をもたらします。

- ①薬物乱用によって、脳に障害が起き、もとに戻らない！
- ②一度乱用を始めると、**依存性**があり、自分の意志では止められなくなる！
- ③**家庭生活、学生生活、そして社会生活が出来なくなってしまう！**
- ④覚醒剤・麻薬・シンナーなどの乱用そのものが、全て法律に触れる**犯罪行為**である！
- ⑤幻覚や被害妄想などから、**他人を傷つけたりする犯罪を犯してしまう可能性がある！**
- ⑥乱用することで暴力団などの**組織犯罪グループを社会にはびこらせてしまう！**

Q：薬物乱用は、個人の問題なんじゃない？健康を害して苦しむのは本人なのだし、自分には関係ないことだと思うけど...

A：特に最近の若い人たちの間に目立ってきている考え方です。しかし、現実には、薬物乱用は個人の問題にとどまらず、家族や社会に次のような深刻な影響を及ぼします。

①乱用した人の周囲に与える影響

長い間薬物を乱用すると、幻覚や被害妄想が強くなり、家族に乱暴したり、凶器を持ち歩くなどの異常な行動が目立つようになり、本人だけでなく、周囲の人たちに苦痛と恐怖を与えることになります。

また、乱用している人の行動が、深刻な犯罪に発展する例があることは、みなさんも新聞報道などでご存じでしょう。

②国際的・社会的問題に発展

薬物が暴力団や国際テロ集団の資金源になっているという社会問題があります。薬物の乱用は「個人の問題」だけではなく、様々な国際的・社会的な問題に結びつき、私たちの生活を脅かす原因となります。

Q：私たちの周囲にはそんな人はいないし、「深刻だ」と言われても、実感として感じられないのですが...

A：若い人たちの状況は、実際には非常に深刻です。誘われてもはっきり断るという勇気を持ちましょう。

若者の乱用は、友人や先輩に誘われて、好奇心や、仲間はずれになりたくないという心理から始まることが多いようです。みなさんも、いつ誘われてもおかしくないのです。

「やせたい」とか、「勉強しなければいけないけれど、眠いし疲れる」「なんだかイライラする。ムカつく」などと感じることはありませんか？そんなときに、「やせる薬」「いい気持ちになる、疲労が回復する薬」などという誘いがあったら、要注意です。実際に、疲労回復薬だと思いこんで乱用していたというケースもあります。

また、「エス」「スピード」「アイス」「チョコ」「エクスタシー」などと、罪悪感を薄めるような呼び方をする場合があります。使用方法も、注射針を使うだけでなく、吸引するような方法も増えていて、恐怖感・警戒感を薄めています。しかし、呼び方や使用方法が違っても、「薬物乱用」に変わりはないのです！惑わされないようにしましょう。

point!! 薬物から身を守るためのポイント

①薬物に対して正しい知識を持つ。

「簡単にやせる」とか、「飲めばすぐに気分が良くなる」「うそのように疲れが取れる」などという誘惑の言葉に惑わされず、薬物乱用の危険をきちんと認識しておきましょう。

②日頃から自分の意志を表現することを身につけておく。

友達から勧められると、その人との関係を壊したくないので、「NO!」と言うのが難しい場合があります。でも、同調するだけの関係が良好な友人関係ではないでしょうか？あなたの、そしてあなたの友人の将来に関わることです。意思表示が苦手な人はそれを自覚して、練習しておくことも必要です。

③困った時に相談できる人を持つ。

友人や両親、先生など、困ったときに頼りになる人との関係を、日頃から築いておきましょう。

また、難しい問題なので、周囲に適切な人がいない場合には、学生相談室を訪ねてください。相談に応じています。気軽に相談してください。

学生相談室「快適な学生生活へのプレ・ナビゲーション」2004年度版〔提供：(株)麻薬・覚せい剤乱用防止センター「薬物乱用防止マニュアル Q&A」〕より

